

令和7年度小平市立小平第九小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

調査全体の平均正答率は、全国平均を8.8ポイント下回っていた。

「語句と語句の関係の表し方」という問題では2.1ポイント、「文章の構成を考える」という問題では全国平均を1.2ポイント上回った。

課題

「目的や意図に応じて書く」という問題では全国平均を19.3ポイント下回り、記述式の解答に大きな課題が見られた。

自分の考えを表現し、まとめていく力を育ていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

国語に限らず、様々な教科で単元や授業の終わりに「振り返り」や「学習感想」を書くことを今後も進めていく。このことにより、自分の考えを書き表す経験を増やすとともに、児童自身が自己を表現することの日常化を図り、自分の考えを書くことへの抵抗感を減らし、自信をもたせていく。

書くことの指導時には、全体で資料を分析する時間を確実に設けるとともに、目的に応じた文章の定型文を提示し、自信をもって書くことに取り組めるようにしていく。

【算数】

状況の分析

調査全体の平均正答率は、全国平均を10.0ポイント下回った。

観点別に見ると「思考・判断・表現」については、全国平均を12.5ポイント下回っていた。

課題

「適切なグラフを選び理由を記述する」問題では、正答率が全国平均を19.4ポイント下回った。グラフを読み取るだけでなく、読み取ったことから複合的に思考を深め、表現できる力を育て必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

データの活用については、算数だけでなく、社会科や総合的な学習の時間などで学習する際も、様々な表やグラフを読み取ることに加え、複合的に読み取り、学習理解を一層深めていく指導を進めていく。また、学習内容を新聞等にまとめ上げる活動では、積極的に表やグラフを取り入れ、表やグラフを使いこなすことから、読み取る力の育成につなげていく。

東京ベーシックドリルの活用を進め、基礎・基本の定着を進めていく。

【理科】**状況の分析****課題**

調査全体の平均正答率は、全国平均を6.6ポイント下回った。

「電気の回路」についての設問では、全国平均を7.8ポイント上回るなど、「エネルギー」を柱とする領域では、全国平均を1.5ポイント上回っていた。

「新たな問題を見出し、表現する」という問題では、全国平均を14.0ポイント下回り、無回答率が37.7%であった。

観察、実験などで得た結果から自分の考えをもち、その内容を記述することを苦手としている児童が多い。

学校で取り組む具体的な改善策

個々に観察や実験などの結果から考察をまとめる時間を多く設けることに加え、児童の振り返りや気づきをもとに学習を進めていくことができるようにする。

実験結果の予想や結果、考察を丁寧に記録し、学習の振り返りをまとめていくことを今後も継続し、自分の考えたことを記述していくことの習慣化を進める。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけない」という項目では、肯定的回答が全国平均を上回った。

「学校が休みの日にどれくらい勉強しますか」という質問では、「全くしない」と回答した児童が全国平均を15ポイント以上上回っていた。

「読書は好きですか」という項目では、肯定的回答が全国平均を下回っていた。

毎週の朝読書や各学期の読書旬間を設定しているが、読み聞かせや本の紹介、大人が読書を楽しむ姿を見せるなど、本により親しみやすい環境づくりが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

朝読書や図書室利用時に、教員が児童管理に追われるだけでなく、本を児童と一緒に選んだり、読書を楽しんでいる姿を見せたりすることで、読書の楽しさを広げていく。

各教科での学びを実生活に結び付けていくことを進め、日常の生活からもたくさんの学びがあり、授業における学習とつながっていることを児童が実感できることで、楽しく学んでいく態度を育成していく。

児童の善悪に対する正しい判断力や互いに関わり合うことへの積極性を生かし、学級活動やたてわり班活動を充実させ、自己肯定感を高めていく。